

デジタル田園都市国家構想交付金活用事業 効果検証シート

資料 2

●地方創生推進タイプ

No.	PLAN (計画)・D O (実施)		C H E C K (評価) 令和6年度取組実績 (単年度)					A C T I O N (改善) 事業実施を踏まえた 今後の方向性	担当課		
	事業名	【上段】事業期間	総事業費 (千円)	交付金額 (千円)	事業経費内訳	事業効果の 有無	事業実績				
		【下段】事業概要									
1	ポビュレーションアプローチの強化による健康新進及び産業活性化事業	令和3年度 ～ 令和7年度	39,805	9,101	(1) スポーツ健康ゾーン運営経費 35,064千円 (2) 体組成測定に係る経費 198千円 (3) 健康コーディネーターの配置に係る経費 2,969千円 (4) 「m（めご）ポイント事業」やmポイント事業協力店登録拡大に関する経費 239千円 (5) 新たな観光コンテンツの周知PR活動経費 392千円 (6) 事務経費 943千円	地方創生に効果 があつた	1 「めごぶらざ」を活用した魅力ある事業の実施（事業費内訳(1)、(2)、(5)、(6) ① 運営団体による魅力的なイベントの実施（R6利用人数47,191人、累計141,121人）--(1) ② 公立大学法人会津大学短期大学部と連携した子どもの体組成測定の実施（4回、計45名、登録者累計512名）--(2) ③ マッチング・イベントの開催（花植え3回65人、連携協定4回442人、計507人）--(5)(6) 2 運動・食育・産業振興事業（事業費内訳(3)、(4)、(5)、(6)) ① 施設・事業の情報発信役となるコーディネーターの配置（会計年度任用職員1名）--(3) ② 施設リーフレット及びイベントチラシの作成・配布--(6) ③ 「m（めご）ポイント事業」の実施（めごぶらざの利用回数20回につき、食育応援店等で利用できる500円分の商品券の交付（R6交付200枚×10万円分）と子どもの食事相談の実施（10回、計44人））--(4)(5)(6)	「めごぶらざ」を活用した魅力ある事業や運動・食育・産業振興事業の実施により、令和6年度の子どもの年間利用者数は47,191人となり、昨年度よりやや增加了。（R4年度47,342人、R5年度46,588人） 令和7年度については、めごぶらざを活用した運動遊びと望ましい食事についての学びを継続して実施することにより、生涯を通じた運動習慣と望ましい食生活習慣の定着につなげるきっかけを提供する。	こども課		
2	eスポーツによる元気なまちづくり推進事業	令和4年度 ～ 令和8年度	1,773	886	(1) 大会開催支援業務委託料 1,360千円 (2) eスポーツ講師謝金 50千円 (3) 使用料及び賃借料（機器、Wifi使用料） 363千円	地方創生に効果 があつた	1 地域に出向いたeスポーツ体験会の開催 子どもや高齢者、障がいのある方など、幅広い市民が気軽にeスポーツを体験できるように、地域や施設等に出向いた体験交流会を開催した。 ○実施回数 5回（5日） ○参加者数 374名 2 市民eスポーツ交流大会の開催 eスポーツによる新たな賑わいの創出や世代間交流の促進のため、市民eスポーツ交流大会を開催した。 ○実施回数 1回（1日） ○参加者数 131名	eスポーツの可能性を広げるため、教育機関や福祉施設との連携も強化し、幅広い世代の方が楽しむことができる「eスポーツ」を活用した体験交流会や市民eスポーツ交流大会を開催する。 継続的に事業を実施することで、参加者同士の交流を深め、長期的なコミュニティを形成し、市民のスポーツ活動の活性化を図る。	生涯学習課		

デジタル田園都市国家構想交付金活用事業 効果検証シート

●デジタル実装タイプ

No.	PLAN（計画）・D O（実施）		C H E C K（評価） 令和6年度取組実績（単年度）					A C T I O N（改善） 事業実施を踏まえた 今後の方向性	担当課		
	事業名	【上段】事業期間	総事業費 (千円)	交付金額 (千円)	事業経費内訳	事業効果の 有無	事業実績				
		【下段】事業概要									
1	AIオンデマンド交通事業（西部エリア）	令和6年度	32,837	16,418	(1) 運行支援業務委託料 20,147千円 (2) バス運行業務委託料 8,947千円 (3) 予約受付センター業務委託料 1,889千円 (4) 印刷製本費 1,677千円 (5) 消耗品費 177千円	地方創生に効果 があった	AIオンデマンドバスの導入により、これまで、西部エリア内を5コース分割したコース内の移動から、自宅から西部エリア内の目的地まで移動が可能となった。 また、「西部エリア↔東部エリア」「西部エリア↔会津坂下町」の連絡便と組み合わせることにより、病院、スーパー、商店などが密集するエリアへの移動が可能となった。 さらに、専用アプリやLINEアプリの導入により24時間いつでも乗車予約可能になったほか、キャッシュレス決済に対応するなど、公共交通の利便性向上や交通空白地帯の解消が図られた。	AIオンデマンドバスの利用促進に向け、市ホームページ、広報誌、公式LINE等を通じた周知、各行政区、団体等での利用説明会・利用登録会等の開催により、普及・定着を図る。 また、市民満足度アンケート調査、アプリのアンケート機能を活用した満足度の調査・分析を基に改善を図る。 さらに、利用者数、時間帯別利用者数、年齢区分別利用者数、エリア別利用者数、市民満足度、利用者からの意見を基に、随時評価・分析を行い、運行時間や経路の見直し、運行台数等の適正化を図る。	地域振興課		